

PRAEVIDENTIA DAILY (8月26日)

昨日までの世界：ドル続伸、ユーロは景況感悪化で続落

昨日は、米2年債利回りの上昇が続く中で、先週の Yellen 議長発言後の米ドル高が続き、中では NZ ドルの対米ドルでの下落が大きく、0.8336 ドルへ下落、本日早朝も下落が続いている。ドル/円は月曜早朝に一時 104.49 円へ急上昇した後は反落基調となり、欧州時間にかけて一時 104 円割れとなったが、米2年債利回りのじり高が続く中で、再び 104 円台を回復して引けている。なお、米新築住宅販売件数は 41.2 万件と市場予想を下回ったが、前月が 40.6 万件から 42.2 万件へ大きく上方修正されたこともあってか、ドルへのインパクトは殆ど見られなかった。

ユーロ/ドルも、早朝に下落した後、ドイツ Ifo 景況感指数が 106.3 と前月および市場予想を下回ったことから一時 1.3184 ドルへ続落、年初来安値更新が続いた。この間、景況感悪化と先週の Draghi 総裁の追加緩和を唆す発言を受けて量的緩和への期待感が高まったこともあって、ドイツ 2 年債利回りが急落し一時 -0.5% と大幅にマイナス化したこともユーロ下押し要因となった。フランスの内閣総辞職もユーロ安要因として意識された可能性がある。

この間、ポンド/ドルも早朝に続落し一時 1.65 ドル丁度近辺へ下落したが、その後おおきく反発し、ほぼ先週末の引け値である 1.657 ドル近辺を回復した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.1	+0.01	+0.01	-0.00	-0.02	-0.02	+0.00	+0.5	+0.5	-0.3	+0.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.4	-0.05	-0.04	+0.01	-0.01	-0.03	-0.02	+1.7	+0.5	+0.4	-0.08
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.0	-0.01	-0.00	+0.01	+0.02	+0.00	-0.02	+0.0	+0.5		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.2	-0.02	-0.01	+0.01	-0.02	-0.04	-0.02	+0.5	-0.5	-0.0	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.8	-0.03	-0.03	+0.01	+0.01	-0.01	-0.02	+0.5	-0.5	-0.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.4	+0.01	+0.01	-0.00	+0.01	-0.02	-0.03	+0.5	-0.3	-0.0	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

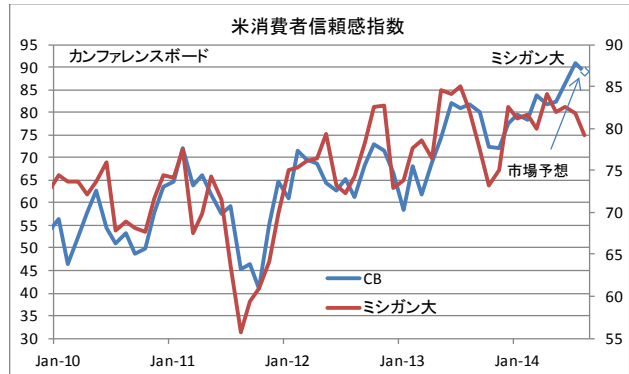
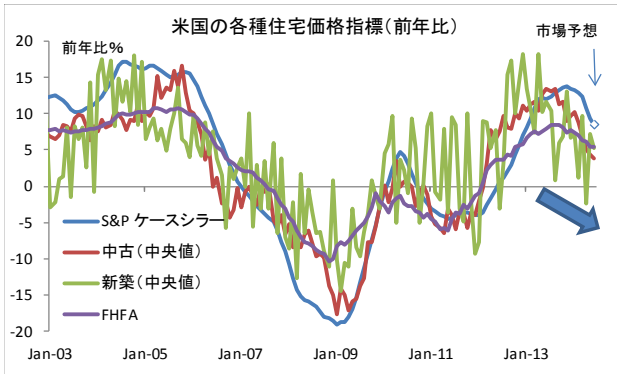
きょうの高慢な偏見：米経済の弱点

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓、NZD ↓、EUR/GBP ↓

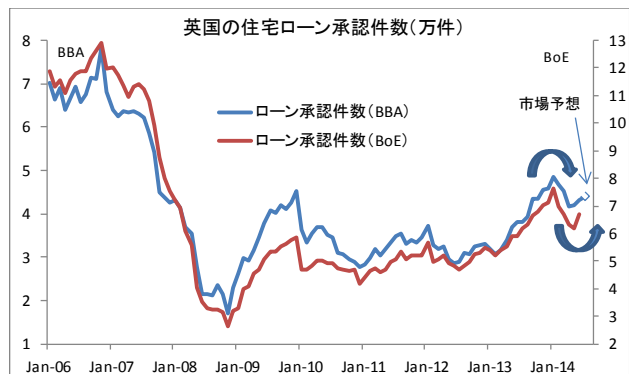
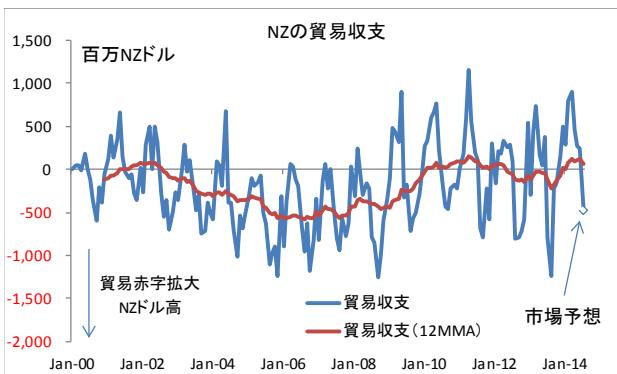
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
NZ7 月貿易収支・億 NZ ドル	7 : 45	+2.47	-4.75	
英 7 月住宅ローン承認件数・万件	17 : 30	4.3265	4.4065	BBA 作成
南ア 2Q GDP 前年比	18 : 30	+1.6%	+1.2%	
米 7 月耐久財受注・除く輸送用機器	21 : 30	+1.9%	+0.6%	
同コア資本財受注		+3.3%	+0.2%	設備投資の先行指標
同コア資本財出荷		-0.3%	+0.5%	GDP 統計作成に使用
米 6 月 S&P ケースシラー住宅価格・前年比	22 : 00	+9.3%	+8.5%	
米 8 月消費者信頼感指数	23 : 00	90.9	89.0	カンファレンスボード作成

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日発表予定の米国の材料は、どちらかというドル安要因となりそうだ。米国の住宅価格は Fed の利上げ開始時期に決定的な影響を与える訳ではないものの前年比伸び率の鈍化が続いており、本日発表の 6 月分 S&P ケースシラー住宅価格（他の住宅価格指標よりも 1 か月遅れる）も同様に伸び率鈍化が予想されている（下の左図を参照）。また、8 月分カンファレンスボード消費者信頼感指数も、既に 8 月分速報値が発表されているミシガン大分は株高・雇用情勢改善にも拘らず前月から悪化しており、本日発表分も同様に前月から悪化しそうだ（下の右図を参照）。これらの指標が先週の Yellen 議長発言のドル高効果を弱めるかたちで、ドル/円は再度 104 円割れもあり得よう。なお、耐久財受注は月次の振れが非常に大きいことからトレンドを見極めるのが難しく、市場へのインパクトは相対的に小さい。



その他、NZ 貿易収支と英住宅ローン承認件数も注目だ。ニュージーランドの貿易収支は主要輸出品である乳製品価格の大幅下落基調もあって赤字化が予想されており（下の左図を参照）、NZ ドル安傾向に拍車をかける可能性がある。他方、英 BBA 住宅ローン承認件数は、英規制当局による銀行に対する融資基準強化指導を受けて 2 月以降減少していたが、前月 6 月分に反発し始め、今回も続伸が予想されている（下の右図を参照）。持ち直しが確認されると、住宅市場沈静化には銀行規制（いわゆるマクロプルーデンス政策）では不十分で、早期利上げ開始が必要という市場の認識を強め、ポンド上昇に繋がるだろう。但しポンド/ドルは非常に地合いが悪いことから、ユーロ/ポンドの売りの方が妙味がある。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641